令和５年度　県立勝田特別支援学校　自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆児童生徒と教職員の笑顔があふれる安全で安心な学校 ◆児童生徒が主体的・協働的に取組、もっと学びたいを育てられる学校 ◆児童生徒も教職員もみんながほめられる、認められる、活躍できる学校 ◆地域、保護者、関係機関等と教職員が連携・協働できる魅力ある学校

昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　点　目　標	達成状況
〈成果〉 ・ICT 機器の活用が進み、授業や学習活動に積極的に取り入れた。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、校内の学習活動に体験的な活動を取り入れ、学習活動を工夫して行った。 〈課題〉 ・一人一人の興味関心に対応したICT 機器の活用の工夫や自作教材教具の活用の工夫 ・心身の変化に気づき、情報を共有しながら児童生徒を守るための避難体制をさらに強化する。	1 一人一人の違いを認め、子どもの強みを生かし、良さが発揮できる教育環境の工夫	①一人一人の合理的配慮がなされた教育環境づくりの充実 ②チャレンジする気持ちを引き出す環境づくり ③児童生徒に寄り添い、良さを認め、励ます取り組み	○教室環境等、整理の必要性について周知し、改善を図ったり、集団が苦手な児童生徒について、安心できる居場所づくりに努めた。 ○特体連、勝田クリーンマスター等チャレンジの場を設けた。表彰や全校集会等で内容と対象者をスクリーンに映し、本人を称えると共に、わかりやすさに繋げた。 ○集団活動への参加が難しい児童生徒に寄り添い、活動内容や時間等、本人と話し合いながら環境づくりに努めた。
	2 達成感や満足度を高める成功体験の工夫	④認め合う、確かめ合う活動の工夫 ⑤「いつでも どこでも だれとでも」あいさつで心をつなぐ取り組み ⑥異なる見方や考え方を認め、可能性を伸ばす取り組み	○学級の係、委員会や生徒会活動など、責任をもって仕事や作業に取り組めるよう配慮し、他者からの感謝や承認を得ることで意欲の向上に繋がった。 ○さわやかマナーアップ運動では、中高生を中心に、自発的に声を出す場面が増えた。●駅工事で県立校と実施できず。 ○PTA 学年研修で保護者の施設見学を実施。保護者同士で見聞や交流を深め、多様な事例に触れる機会となった。
	3 他者に対する尊敬と感謝の気持ちを大切にした人間関係の推進	⑦「ありがとう」「ごめんなさい」等の気持ちが言える安心できる環境づくりの取り組み ⑧思いやりや感謝の気持ちを育てる交流活動の取り組み ⑨夢やあこがれの気持ちを大切にした人間関係の取り組み	○PTA 役員を中心に企画し「夏まつり」を実施。準備等時間がかかったが、楽しさの中で「子ども、保護者、職員」が相互にかかわりあい、思いや感謝を伝えあう場となった。 ●準備軽減しつつ内容の充実が課題。 ○交流3種（学校間・地域・居住地校）を各部で実施し、成果が上がったが、学校全体で共有する報告の場の設定が必要。 ○職場見学や現場実習の実施では、キャリア教育の充実に向けて取り組んだ。●全体構想が弱く、各部間の系統性が図れていない点が課題。
	4 一人一人の実態や教育のニーズに応じた学習活動の工夫	⑩教育課程に基づいた系統的な年間指導計画の作成と実践 ⑪アセスメントを活用した個別の指導計画の実施・評価及び改善 ⑫児童・生徒の様々な課題やケースに応じた校内支援会議の充実	○学習指導部係長を中心に、年間指導計画の見直しを行い、手続きの簡略化で作業効率を高めた。 ○自立活動を主とした訪問教育の現状の教育課程では評価が難しいため、見直し検討し、次年度に向けて改善した。 ○対策委員会を学期１回開催、長欠児童生徒の把握、いじめアンケートを基に事案の検討を丁寧に行った。

	5 自己選択や自己決定等、 主体性を伸ばす積み重ねの工夫	⑬児童・生徒の「やりたい」という気持ちを大切にわくわくしながら活動する授業の工夫 ⑭自分が誰かの役に立っているという体験や授業の工夫 ⑮積極的な教材教具の開発と工夫改善	○授業改善のための校内研修を各部単位で５回実施し話し合いを深めたり、外部講師を招いての講演会により、協働活動（役割の相互理解）の意義について学んだりした。 ○コミュニティ・スクールをとおして、人とかかわる体験活動や活動内容を工夫した環境づくりに努めた。 ○学校公開に伴い、様々な学習や教材の公開や授業動画の放映を行った。教職員が相互研鑽を図る機会として有効だった。
	6 コミュニティ・スクールをとおし 先人から学び、様々な人たちと 相互理解できる活動の工夫	⑯様々な人とつながり協働して活動できる取り組み ⑰地域の様々な資源を活用した魅力ある交流活動の取り組み ⑱他者を認め、思いやりをもって行動できる取り組み	○小学部：佐野の和を推進する会、学生ボランティアと遊びをとおして交流。中学部：地域の和菓子屋とお茶屋と交流。高等部：スーパーマルト、海浜公園へ出向き、仕事体験を実施。様々な成果があげられた。校内の学習ではかかわりがもてない人々とつながり、児童生徒にとって刺激ある活動となった。今後は周知する機会を工夫して報告するなど、該当学年以外にも周知・取り組みの共有を図りたい。
	7 高い危機管理の意識をもち、 教員一人一人が児童生徒の 安全を守るための体制の充実	⑲児童生徒の状況を見守り、死角を作らない体制づくり ⑳施設・設備の安全点検と異状箇所への迅速な対応 ㉑ヒヤリハット事例の集約と情報共有	○「いじめに関する記録」の様式作成や「生徒指導報告書」の積極的な活用の呼びかけ、緊急捜索訓練実施で、早期・柔軟な対応を目指した。 ○長期休業を中心として、廊下の塗装を行った。剥がれや汚れから暗くなりがちな教室周りが明るく清潔になった。 ●教室ガラス窓に飛散防止シートは過去に貼ったクリアテープの場所が不透明であり、改善が必要である。
	8 自力通学者の安全通学と スクールバスの安全な運行の 徹底	㉒通学指導の計画的な実施（自力通学判定会議） ㉓運行会社との日々の連携（スクールバス会議、添乗指導） ㉔学校のルールと社会のルールの連動の下で取り組む生徒指導の推進	○自主通学及び自力通学判定会議を定期的に実施し、許可後も定期的に立哨指導を行い、安全指導を行った。 ○毎月のスクールバス委員会及び必要に応じた添乗指導を行うことで、運行会社と連携し、問題解決にのぞめた。 ●「交通安全教室」は4学年ほどの実施だったため、さらに増やしたい。複数の団体への依頼し、一部リモート学習を取り入れるなどの工夫をする。
	9 非常災害時を想定した 危機管理体制の 更なる改善・充実	㉕各種避難訓練の実施（地震、火災、原子力、竜巻、J アラート、不審者対応、引き渡し訓練等） ㉖学校防災連絡会議、学校保健安全委員会 ㉗教職員の救急救命講習会の受講	○引き渡し訓練は時期が遅れたものの、計画通り実施し、保護者や外部関係者の協力も得られた。課題はあるが、前進した。 ●職員全体への周知不足と、指示待ち傾向の改善が課題。 ●年度初めの各種訓練実施で、危機管理体制の整備 ○いばらき救命教育・AED プロジェクトの講習会に学校として参加、全職員の 80%以上が受講。例年課題だった「救急対応訓練」も今年度は実施できた。

評価項目	具体的目標	具　体　的　方　策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理 教育計画	・災害対応マニュアルの見直し、児童生徒を守るための体制づくり	・各種災害に応じた避難訓練の実施 ・災害対応マニュアルの見直し、共通理解を図り危機管理意識を高める ・変化する状況に対応できる危機管理体制の充実	7－⑲ 9－㉕	B	○引き渡し訓練実施 ●訓練時期、各自が「自分ごと」としての取組 ◇分析とアイデア収集、外部意見の取入れ
教職員の育成及び指導・監督	・報告、連絡、相談を徹底し、迅速に対応できる意識の向上	・状況に応じて柔軟に対応できるよう定期的に面談を行う ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを中心とした校内支援会議の充実 ・課題行動のある児童生徒に対する支援会議の継続	4－⑫ 9－㉔	B	○外部専門家と連携した他害が強い生徒への対応●校内支援体制の脆弱さ◇専任コーディネーター以外の活躍設定
対外活動	・コミュニティ・スクールをとおして良好な人間関係づくり	・人とのつながりを大切にした体験活動の工夫 ・地域の人と児童生徒が協働する多様な学びの場の設定 ・本校の良さを伝え、活動できる役割を整理する	6－⑯⑰	B	○興味関心をそそる体験活動を設け、地域の方と交流●「活動」からの発展的な学び◇目的の共有と型にはまらない発想と受け入れ態勢づくり

※評価基準：　A：十分達成できている　B：達成できている　C：概ね達成できている　D：不十分である　E：できていない